

ビルマ語の辞書

ビルマ語の辞書は基本的に一つの辞書で十分ということではなく、複数の辞書を駆使しつつ学習をするしかない。以下に挙げた辞書は日本で比較的入手しやすいもの、本学図書館に収められているものを中心にあげてある。学習の手引きとして活用していただきたい。

A. 学習用：ビルマ語＞外国語辞書

(1) 『ビルマ（ミャンマー）語辞典』大野徹、大学書林（2000年）

(2) “Myanmar-English Dictionary”, Myanmar Language Commission (1993, 1st print)

(1)は現在入手可能な唯一のビルマ語・日本語辞典で、本学ビルマ語専攻では1年次に共同で購入することになっている。収録語彙数がかなり多いので、基礎的な学習段階ではほぼこれで足りる。ただし用法、用例などの情報はほとんどなく、また図版は一切ない。大型の語彙集というべき内容である。(2)はミャンマー教育省が発行するビルマ語・英語辞書で、内容は信頼の置けるものである。ビルマ語・日本語辞典にない様々な文化的な語彙やイディオムなどが多数収録されており、(1)を使いつつ補完的に使うといいだろう。図版が多く載せられているのも役に立つ。日本ではビルマ人が開いている雑貨店などで入手可能なことが多い。同じ内容のCD-ROM（Windows用）もある。

(3) 『ビルマ語辞典』原田正春・大野徹、日本ビルマ文化協会（1979年、1990年改訂）

初めて出版されたビルマ語・日本語辞典。(1)が刊行されて以降はあまり使用する必要性は少なくなってきたが、(1)に含まれない語彙やイディオム、用法などが載っていることがあるので、いまだ有用である。なお現在新本での入手は非常に困難。

(4) 『緬漢詞典』北京大学東方語言系商务印书馆（第1刷1993年、第2刷2000年）

中級以上の読解になると、語彙が掲載されていないとか、語義が掲載されていないなど、上記の三冊では十分ではない。可能な限り多くの辞書に当たるべきだが、その中でもまず最初にこの辞書を参照したい。語彙数、語義などについて、単体のビルマ語・外国語辞書としては最も完備している。図版も多く、巻末付録も非常に有用である。

B. 学習用：外国語＞ビルマ語辞書

(5) 『日本語ビルマ語辞典』大野徹、大学書林（1995年）

(6) “ဂျပန်-မြန်မာ အဘိဓာန်”[gyapan'-mran'mā 'abhidān'] [日本-ミャンマー字典], ဦးတိုင်းအုပ် [ū'tuin'up'] [ウー・ティンオウツ], အရက်သစ်စာပေ [arun'sac'cāpe] (1993年)

日本で手に入る日本語・ビルマ語辞典としては(5)がある。語彙数は多いものの、用法などについての情報は一切ないので、ある程度ビルマ語できるようにならないと使いにくい。

(6)はミャンマーで発行された日本語・ビルマ語辞典。語彙数が多いだけでなく、用例が比較的多く掲載されているので、作文には有用であろう。ただ一部明らかな誤りがあるので注意が必要。日本ではビルマの雑貨店で手に入ることもある。

なお二冊とも日本語の項目はローマ字で配列されている。

(7) “အင်္ဂလိပ်-မြန်မာ အဘိဓာန်”[aṅgalip'-mran'mā 'abhidān'] [英語・ビルマ語辞典], Myanmar Language Commission (1995年)

ミャンマーの教育省が発行する英語・ビルマ語辞典。収録語彙数がとても多いので、英語・ビルマ語辞典としてはこれで十分であろう。ただしあまりに大きいので持ち運びをするのは無理である。CD-ROMもある（Windows用）。

(7)以外にミャンマー国内で多数の英語・ビルマ語辞典が出版されているが、ビルマ語学習を目的とする外国人にはあまり有用ではないので入手しておく必要性はない。

C. その他の辞書

(8) “Burmese-English English-Burmese Compact Dictionary”, Nance Cunningham, Aung Soe Min 著, Paiboon Publishing (2009年)

これは英語・ビルマ語およびビルマ語・英語辞典が一冊になったコンパクトな辞書。紙面サイズは小さいが分厚い。他にない特徴として発音からビルマ語が引けるようになっている。語彙数は十分ではないが、緬英・英緬が一冊になっているのはこれだけであり、持ち歩きできる大きさなのは便利と言えるかも知れない。ただし学習用には向かない。Amazon（日本）で入手可能。

(9) “ခရီးဆောင်မြန်မာအဘိဓာန်” [kharī'choŋ' mran'mā 'abhidān] [ポケットビルマ語辞典], Myanmar Language Commission (2001年?)

ミャンマー教育省が発行するビルマ語・ビルマ語辞典。非常にコンパクトでありながら、語彙数や説明が充実している。ビルマ語辞典として手に入れておきたい。ただし日本国内では入手が困難。

(10) “Burmese/Myanmar Dictionary of Grammatical Forms”, John Okell, Anna Allott 著, Curzon Press (2001年)

(11) 『パーリ語辞典』水野弘元、春秋社（2005年、増補改訂版）

(10)はビルマ語の文法的な語彙の意味や用法の記述に特化した辞書である。口語形、文語形とも網羅されている。用例が非常に豊富で、正しい語法を知るにはとても有用。

(11)はビルマ語の辞書ではない。しかしビルマ語を使った高度な研究にパーリ語の知識は不可欠である。上座部仏教の聖典語であるパーリ語は宗教的な語彙はもちろん、抽象的な概念を表す語彙や学術用語などにも用いられていることが大変に多い。ビルマ語を深く理解するためにも本学で研究言語として開講されているパーリ語の授業を取って欲しい。パーリ語辞典が引けると、ビルマ語辞典に載っていない語彙を探し当てられることがある。

※ERA Technology Co. Ltd.という会社から SMART というブランドの電子辞書（ビルマ語と英語、中国語）が数種類発売されている。ただ収録されている語彙やその数、意味記述などの点で満足のできるものではない。文字入力などの使い勝手もよいとは言えず、ビルマ語学習者が入手する価値はない。

(文責：岡野賢二)